

SDGs 自発的ローカルレビュー（VLR）先行都市の取組

横浜市米州事務所 谷澤 寿和

【要点】

- ・ SDGs を積極的に推進する都市の間で、都市レベルでの SDGs の進捗状況をレビューする自発的ローカルレビュー（VLR）の取組が広がっている。
- ・ 米国のブルッキングス研究所の呼びかけによって集まった SDGs を推進する都市間のネットワークで、VLR を実施した先行都市の経験が共有された。
- ・ ブルッキングス研究所は、先行都市の VLR を基に、VLR の有用性と課題を考察するレポートを発表した。
- ・ VLR の実施体制や範囲は都市によって異なるものの、多くの都市で、①SDGs 目標と既存の市計画の整合（マッピング）、②SDGs ターゲット・指標のローカル化、③既存の市計画の進捗を基にしたレビューというプロセスを経てレビューが実施されている。
- ・ VLR は、よりよい政策形成のためのツール、そして、説明責任も含めた対内的・対外的なコミュニケーション・ツールとしての価値が期待されている一方で、都市の状況の違いから、VLR の適用のさせ方は、各都市に自由度を持たせるべきという意見も出されている。

1. SDG 都市連合（SDG Leadership Cities Network）**(1) SDG 都市連合¹とは**

SDG 都市連合とは、都市やローカルコミュニティが SDGs のグローバルな進展のために重要な役割を担うという認識のもとで、米国のブルッキングス研究所の呼びかけにより集まった、SDGs を推進する世界 17 都市（2019 年 11 月時点）から成るネットワークだ。先駆的な取組を行う都市の経験の共有と都市課題の解決を通して、ベストプラクティスを特定し、且つ、ローカルリーダーがいかに目標を設定し、いかに政策・予算・計画に SDGs を位置づけ、投資を呼び込み、パートナーシップを拡大しネットワークを活用するか、についての知見を広めることを目指している。

[第一回会合](#)は 2019 年 4 月、ベッラージオ（イタリア）、[第二回会合](#)は 2019 年 11 月、メキシコシティ（メキシコシティ）で開催された。これまでの会合では、①自発的なレビューやデータ・ダッシュボードを活用した都市レベルで SDGs を継続的に推進するためのメカニズム、②公共調達への SDGs の反映、③地方債や官民パートナーシップを含めたファイナンスングの手段、④都市における暴力を減らすための横断的な行政政策、などについて議論している。

SDG 都市連合は、国家、NGOs、アカデミア、民間ではなく、都市のイニシアティブに焦点を当てたネットワークである点に特徴づけられる。また、参加都市が「何」を（達成）したかの PR の場としてよりも、「どのように」（達成）したかの共有と議論を重視し、都市間による実践的な学び合いのプラットフォームとなることを意図している。

¹ SDG 都市連合設立時には、SDG Leadership Cities Alliance という名称だったが、現在は SDG Leadership Cities Network と呼んでいる。本稿では設立時の名称に合わせて「SDG 都市連合」と記載する。

【参加都市】

Accra (アクラ)、ガーナ	Madrid (マドリード)、スペイン
Bristol (ブリストル)、英国	Malmö (マルメ)、スウェーデン
Bogota (ボゴタ)、コロンビア	Mannheim (マンハイム)、ドイツ
Buenos Aires (ブエノスアイレス)、アルゼンチン	Mexico City (メキシコシティ)、メキシコ
	Milan (ミラン)、イタリア
Durban (ダーバン)、南アフリカ	New York City (ニューヨーク)、米国
Hawaii (ハワイ)、米国	Orlando (オーランド)、米国
Helsinki (ヘルシンキ)、フィンランド	Pittsburgh (ピッツバーグ)、米国
Los Angeles (ロスアンゼルス)、米国	Yokohama (横浜)、日本

(2) SDG 都市連合への横浜市の関わり²

横浜市は、SDG 都市連合設立当初からのメンバーで、本レポート執筆時点で、日本から唯一の参加都市となっている。2015年にSDGsが国連サミットで採択された以前から、横浜市は、[アジア太平洋都市間協力ネットワーク \(シティネット\)](#) や [公民連携による国際技術協力 \(Y-PORT\)](#) など、国際的なネットワークとパートナーシップによって、海外諸都市と共に都市課題の解決に貢献してきた。また、横浜市自身の行政課題の解決の仕組みの一つとして、民間企業や市民との協働の仕組みを構築し経験も蓄積してきた。2018年には国から「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」として選定され、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る、横浜型「大都市モデル」の創出に向け、多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織である、[ヨコハマ SDGs デザインセンター](#) を立ち上げるなど、SDGsの達成に向けた先導的な取組を行っている。SDG 都市連合における会合では、ファイナシングのテーマのもとで、Y-PORT やヨコハマ SDGs デザインセンターなどの事例をもとに、市の資金だけでなく、国や民間企業等との連携によって、互いのリソースを最大限に生かして都市課題・社会課題を解決する仕組みと経験を参加都市に共有している。

(2) SDG 都市連合のアウトプット³

ブルッキングス研究所は、[第一回目](#)と[第二回目](#)の会合のアジェンダと要点の公表と共に、SDG 都市連合による議論のアウトプットとして、これまで、三つの独立したレポート／記事（第一回会合のアウトプットとして、[参加都市の関心や今後の議論の優先事項を整理したレポート](#)を、第二回会合のアウトプットとして、四つの主要議題である①VLR、②公共調達、③ファイナンス、④都市における暴力のうち、[先行都市のVLRを分析したレポート](#)、及び、[都市における暴力を減らすための組織／分野横断的なアプローチを紹介する記事](#)）を発表している。特に、第二回会合では、ニューヨーク市をはじめ、すでにVLRを実施している先行都市の経験をもとに、主要議題の中でVLRについて最も多くの時間を費やし議論された。

SDG 都市連合の参加都市の一つであるニューヨーク市の呼びかけによって、横浜市を含めSDG 都市連合の参加都市を中心に世界の22都市が、[自発的ローカルレビュー \(VLR\) を実施することの宣言書](#)に署名したことは、SDG 都市連合のネットワークが活かされた成果の一つ

² SDG 都市連合の主催者であるブルッキングス研究所が米国の機関であることから、これまでの会合には、横浜市米州事務所（於：米国・ニューヨーク市）が市を代表し出席している。

³ SDG 都市連合は、現在進行形（2020年2月現在）のネットワークであり、本稿記載のアウトプットは2020年2月時点のものである。

と言える。

2. 自発的ローカルレビュー (VLR)

(1) VLR の意義

2018年、ニューヨーク市が都市として初めて、VLRを国連に報告して以来、世界各地でVLRが広がっている。

ブルッキングス研究所は、SDG都市連合による議論を踏まえ、VLRを先行的に実施している7都市（ブリストル（英国）、ブエノスアイレス（アルゼンチン）、北九州（日本）、ロサンゼルス（米国）、マンハイム（ドイツ）、ニューヨーク（米国））のVLRを分析し、都市の持続可能な開発を計画するためのツールとしてのVLRの有用性と課題を考察するレポート「[Next generation urban planning: Enabling sustainable development at the local level through voluntary local reviews \(VLRs\)](#)」を発表した。

VLRに決まった定義はないが、同レポートでは、「SDGsのターゲットに対する都市（ローカル）レベルでの進捗の自主的な評価⁴」と定義し、①よりよい政策形成のためのツール、そして、②説明責任も含めた対内的・対外的なコミュニケーション・ツールとして、VLRの価値を見出している。また、グローバルアジェンダであるSDGsのローカル化（都市におけるSDGsの適用）にあたっては、①認知、②位置づけ、③分析、④アクション、⑤説明責任の5つのステップとそれらのサイクルが存在し、VLRは、⑤説明責任を果たすメカニズムとしてだけでなく、すべてのステップに対する触媒になり得るとしている。以下では、同レポートをベースに、先行VLRの特徴を紹介する。

【VLR実施都市・実施表明都市⁵】



Sources: IGES, UN SDG Knowledge Platform, NYC's Voluntary Local Review Declaration, and authors

【ブルッキングス研究所レポート】

⁴ a voluntary assessment of local progress towards targets that are part of the SDGs

⁵ イラストでは、横浜市はVLR実施済み（Completed）となっているが、2020年2月現在、未実施であり、正しくは実施表明（Committed）である。

(3) VLRの実施体制

VLRの実施体制は都市によって異なる。同レポートでは、4つのモデル（①単一チーム・モデル、②ハブ&スポーク・モデル、③部局横断モデル、④パートナーシップ・モデル）に分類している。

「単一チーム・モデル」の事例として、ブエノスアイレスでは、庁内にSDGアナリストやコーディネーターなどから成るSDGsチームを編成し、同チームが一貫してレビューを実施した。「ハブ&スポーク・モデル」の事例として、ロサンゼルスとニューヨークは、市長直下の国際担当チームが庁内のハブとなり、関係部署と調整しながら実施した。「部局横断モデル」の事例として、ヘルシンキでは、庁内に部局横断のステアリング・グループ（運営グループ）を設置し、その指揮の下で、関係部署が連携しながら実施した。そして、「パートナーシップ・モデル」の事例として、ブリストルと北九州は、外部機関（大学、研究機関）とのパートナーシップによって実施した。

(3) VLRの範囲

先行7都市のVLRのうち、SDGsの17目標すべてを対象にレビューを行ったのは、ブリストルとマンハイムの2都市である。

他5都市は、17目標のうち一部をVLRの対象としており、ブエノスアイレス、ヘルシンキ、ロサンゼルス、ニューヨークの4都市は、2019年国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）での優先課題に設定されたSDGs目標に沿う形でVLRを実施した。例えば、ニューヨーク市は、4年間かけて17目標をレビューするとしており、2018年、2019年と、それぞれ同年のHLPFで優先課題として設定された目標（2018年は、目標6、7、11、12、15、17、2019年は、目標4、8、10、13、16、17）に対してVLRを実施している。

SDG都市連合での議論においては、レビューの対象とする目標の数よりも、SDGsの三つの側面（社会、経済、環境）に対応したレビューを行うことの重要性が説かれた。

【先行7都市のVLRの範囲⁶】

	2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
Bristol	2019	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Buenos Aires					■	■			■		■			■				■
Helsinki				■					■		■			■				■
Kitakyushu					■	■		■	■	■			■					■
Los Angeles				■	■			■		■	■			■				■
Mannheim		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
New York City				■	■	■	■	■		■	■	■	■	■		■		■

【ブルッキングス研究所レポート】

⁶ 北九州市のVLRでは、6つの優先目標に対してレビューしつつ、他の目標についても言及している。

(4) VLRの方法

先行7都市のVLRは、概ね、①SDGs目標と既存の市計画の整合（マッピング）、②SDGsターゲット・指標のローカル化、③既存の市計画の進捗を基にしたレビューというプロセスを経て実施されている。

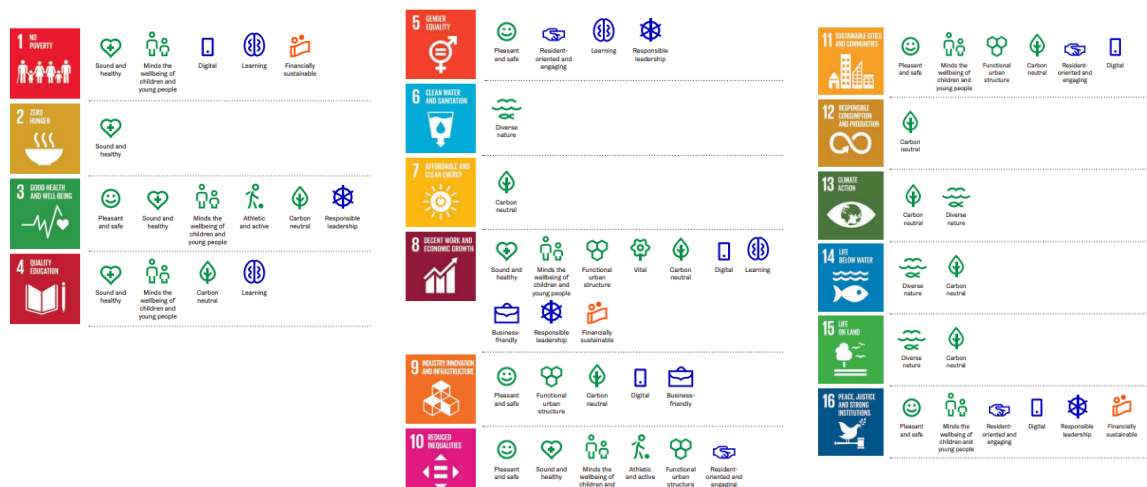
SDGs目標と既存の市計画の整合（マッピング）においては、SDGs目標を既存の市計画に当てはめるか、既存の市計画をSDGs目標に当てはめるか、もしくはその両方の作業が行われている。多くの都市では、SDGs目標を章立てにしたレビューが行われているが、[マンハイム](#)ではSDGsと強く関連付けられた市計画（[Mission Statement Manheim 2030](#)）の7つの戦略に対してレビューされている。

【市計画へのSDGs目標の当てはめ（ヘルシンキ）】



【ヘルシンキ VLR】

【SDGs目標への市計画の当てはめ（ヘルシンキ）】



【ヘルシンキ VLR】

【マンハイムのマッピングとレビュー対象】

- | | | | | | |
|--|----------------------------------|---|---|---|---|
| 1 Mannheim guarantees educational equality and works to prevent poverty. The social and cultural integration of all Mannheim residents is guaranteed. | 1 NO POVERTY
 | 4 QUALITY EDUCATION
 | 8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | |
| 2 Mannheim offers an exemplary urban quality of life with a high level of security as a basis for a healthy, happy life for people of all age groups, thereby gaining more citizens for the city. | 2 ZERO HUNGER
 | 3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING
 | 4 QUALITY EDUCATION
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | 16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS
 |
| 3 Mannheim is characterized by a supportive city community and is a model for communal life in cities. Gender equality and the acceptance of diverse human identities and lifestyles have been achieved. | 1 NO POVERTY
 | 5 GENDER EQUALITY
 | 10 REDUCED INEQUALITIES
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | |
| 4 Mannheim is distinguished by a strong city community and good administrative procedures. Mannheim residents make use of the possibilities of taking part in democratic and transparent processes regarding the development of their city to an above-average extent. | 4 QUALITY EDUCATION
 | 10 REDUCED INEQUALITIES
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | 16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS
 | 17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS
 |
| 5 As a digital and innovative metropolis, Mannheim creates the conditions for companies of every size to realize diverse and sustainable growth as well as attract talented and skilled employees. | 4 QUALITY EDUCATION
 | 8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
 | 9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
 |
| 6 Mannheim is a climate-friendly – in perspective, climate-neutral – and resilient city that is a model for environmentally friendly life and actions. | 6 CLEAN WATER AND SANITATION
 | 7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
 | 13 CLIMATE ACTION
 |
| 7 Mannheim is a model for international cooperation between cities. Municipal development policy and responsible consumption contribute to global justice and sustainable international policy. | 10 REDUCED INEQUALITIES
 | 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
 | 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
 | 16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS
 | 17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS
 |

【マンハイム VLR】

SDGs で設定されている 169 のターゲット及び 232 の指標は、都市レベルでの管理を前提としていないため、性質的にもデータの収集可能性からも、それらをそのまま VLR の指標として用いることはできない。そこで、先行都市の VLR では、SDGs のグローバル・ターゲット及び（又は）指標のローカル化（VLR に適した指標化）を試みている。

ロサンゼルス の VLR では、169 のターゲットをすべて点検し、①全く適用できないターゲット、②そのまま適用できるターゲット、③範囲等を修正することで適用できるターゲット、④再定義することで市のターゲットと近い意味になるターゲット、⑤追加すべき新しいターゲット、の 5 つに分類し、①から④については、既存の市計画（[グリーンニューディール計画](#)、[市長イニシアティブ](#)、[強靱化計画](#)）との整合（マッピング）作業を行っている。

【ロサンゼルス市の SDGs 指標のローカル化】

#	Sustainable Development Goals	Sustainability pLAN (L.A.'s Green New Deal)	Garcetti Administration Policy Actions and Initiatives	Resilient Los Angeles
GOAL 3: GOOD HEALTH AND WELL-BEING Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages				
1	3.a Strengthen the implementation of the World Health Organization Framework Convention on Tobacco Control in all countries, as appropriate		Plan for a Healthy L.A.: 5.3 Smoke-free environments	
0	3.b Support the research and development of vaccines and medicines for communicable and non-communicable diseases. Ensure that all individuals, especially parents with school-age children, are given affordable and reliable access to essential medicines and vaccines.			
2	3.c Increase health financing and the recruitment, development, training and retention of the health workforce, focusing on areas of greatest need		Los Angeles Economic & Workforce Development: multiple specific programs focusing on development of a health industry workforce	
2	3.d Strengthen the capacity for early warning, risk reduction, and management of national and global health risks		Plan for a Healthy L.A.: 1.5 Plan for Health	1. Launch a coordinated preparedness campaign that encourages Angelenos to take actions that improve their resilience 3. Increase the number of Angelenos with preparedness resources and training in our most vulnerable communities 5. Grow partnerships between the public, private, and nonprofit sectors to provide critical services to vulnerable Angelenos in times of crisis 7. Provide Angelenos access to additional trauma resources 24. Promote neighborhood planning programs to support all Los Angeles neighborhoods in developing preparedness plans

【ロサンゼルス VLR】

ブリストルは、SDGs のターゲットに対応する指標を、「SDG 指標に関する機関間専門家グループ (IAEG-SDGs)」による分類やブリストルの既存の指標などから収集し、VLR に適さないか利用できないグローバル指標について代替指標を設定した。そして継続的に指標の数値を反映させるために 2010 年の数値をベンチマークに、経年変化を追跡することで傾向化し、正の傾向は緑、変化なしはオレンジ、負の傾向は赤で色分けし、これらのデータ一覧を VLR の付録として公表している。また、市の総合戦略である「[One City Plan](#)」のウェブサイトには、同戦略の 6 つのテーマ及び 558 のイニシアティブと SDGs の 17 目標の相互の関連付けが公開されている。

【ブリストルの SDGs 指標のローカル化】

Target	Indicator	Source	Unit	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
5.1	Proportion of Council Top Earners who are female	BCC data team	%						55.5	60.7	60.37	54.29	
5.1	Gender pay gap	PHE ^{xxxx}			14.7	11.3	14.8	12.7	15	16.4	14.2		
5.1	Proportion of elected councillors who are women	Local Elections Archive Project ^{xxxx}	%			24.3			35.7	42.0			
5.2	Domestic abuse related incidents and crimes	PHE ^{xxxx}	Per 1000						18.5	19.3	20		
5.2	Violent crime: rate of sexual offences	PHE ^{xxxx}	Per 1000		1.2	1.2	1.2	1.7	1.8	2.6	2.7	3.2	
5.3	Number of new cases of Female Genital Mutilation	BCC ^{xxxx}	Number of new cases							385	335	200	

【ブリストル VLR】

【ブリストル市計画とSDGsの関連付け】

The screenshot shows the Bristol One City website navigation bar with 'SDGs' highlighted. Below, two cards are displayed: SDG 1: No Poverty (red icon) and SDG 2: Zero Hunger (yellow icon). Each card includes a brief description, a key statistic, and a link to 'See related One City Plan Goals >'. The SDG 1 card states: 'End poverty in all its forms, everywhere. Key stat: 16,440 children under 16 live in low income families (19.7%), significantly higher than nationally (17.2%)'. The SDG 2 card states: 'End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable procurement. Key stat: There are almost 43,000 people considered 'food insecure' in Bristol'.

[【One City Plan ウェブサイト】](#)

以上の事例のように、先行7都市のいずれのVLRも指標のローカル化を行っているが、ブルッキングス研究所の調べでは、SDG都市連合のメンバーであるブリストル、ブエノスアイレス、ヘルシンキ、ロサンゼルス、マンハイム、ニューヨークの6都市のVLR全てに共通した指標は一つもない、6都市のVLRで対象となったSDGs目標は5つ（目標4、5、8、10、13）であるが、そのうち3都市以上で見られた共通の指標は5つ⁷だった。

レビューにあたっては、市計画、総合戦略の進捗を基に行っている都市が多く、例えば、[ニューヨーク市](#)は、VLRの対象として設定したSDGs17目標のうち6目標に対して、市の総合戦略である「[OneNYC](#)」の関連する指標や事業の進捗を叙述している。[マンハイム](#)は、SDGsのローカル化を中心課題に据えた総合戦略である「[Mission Statement Mannheim 2030](#)」の7つの戦略の進捗状況をレポートしたものをVLRとして発表している。

ブルッキングス研究所レポートは、SDGsのローカル化について、各都市のVLRでばらつきが見られた論点を3つ指摘している。一つは、SDGs関連事業の予算確保（市の予算編成との連動）について言及しているVLRが少ないこと、二つ目は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」について独立した項目としてあまりレビューされていないこと、そして、三つ目は、自発的国別レビュー（VNR）とのオフィシャルな連動性が特になくないことだ。

(3) 将来的なVLRへの課題

ブルッキングス研究所レポートは、既存のVLRの傾向を踏まえて、将来的なVLRに向けていくつかの検討事項を提案している。すなわち、①異なる自治体からのレポートを大都市圏のレビューに統合することでより広範な連携が促進される可能性があること、②VLRの過程で外部の利害関係者とのパートナーシップを開拓することで、共創による課題解決が進むこと、③アウトカム・レベルの定量データの報告、及び（又は）事業のインパクト

⁷ SDG4 質の高い教育をみんなに ターゲット 4.2「就学前教育への参加率」、SDG8 働きがいも経済成長も ターゲット 8.5「失業率」、「男女収入差」、ターゲット 8.6「就学、就労、職業訓練を行っていない若者割合」、SDG13 気候変動に具体的な対策を ターゲット 13x「CO2/GHS 排出量」。ブルッキングス研究所レポートの巻末には、SDGsの17目標のうち5目標について6都市のVLRで使われた指標の一覧表が公表されている。

評価を行うことで、各事業や活動のSDGsへの有効性を評価でき、それが新しい考え方の基礎となり得ること、④プロセス指標とアウトカム指標を分類し、それぞれ効果的に活用できればVLRとして有益であること、⑤データに基づいたSDGs目標と現状のギャップ分析によって、ギャップの解消のための必要な政策介入の開発につながること、⑥VLRを都市間のピアレビューのツールとして活用することで、世界のベストプラクティスからイノベーションを輸入する（学ぶ）ことができることだ。

なお、VLRのあり方（各都市での適用のさせ方）について、都市の規模、能力（Capacity）、優先課題など都市の状況の違いがあることから、SDGs都市連合の議論においてもブルッキングス研究所のレポートにおいても一律的・統一的ではなく、各都市に自由度を持たせるべきという意見が示されている。

※ 本レポートの内容に関して、その有用性、正確性、知的財産権の不侵害等の一切について、執筆者及び執筆者が所属する組織がいかなる保証をするものではなく、読者が本レポート内の情報の利用によって損害を被った場合も、執筆者及び執筆者が所属する組織がいかなる責任を負うものではありません。また、本レポート中の意見・見解は、執筆者個人の意見・見解であり、所属する組織の公式見解を表すレポートではありません。